

環境の新基準に住民意見の反映は

答 個々の意見の扱いは考えていない



伊藤まゆみ議員

【総合戦略、

新・道の駅計画について】

問 環境審議会への諮問は総合戦略の中で生産年齢人口の増加を図るということもあり、諮問している」と答弁。今回の答申を受けいつまでに基準を作成予定か。

素案が示せる段階になったら、環境審議会、議会、住民、事業者への周知期間を経て、来年度には新基準を適用したい。

答

住民が基準に対して意見を述べるのは可能か。

問

個々の意見をどうするかという点については考えていない。

問

「新道の駅」の場所はどのようになり込まれているか。また進捗状況、今後の建設予定は。

答

当村を訪れる観光客、訪日外国人の分布をデータ化。5つの候補地に絞り込んだ結果報告書を参考に庁内検討委員会等で1カ所に選定。国交省の官民連携支援事業に応募し採択。財政状況が厳しい中、官民連携の注 PPP・PFI 手法を活用する方針。

問

平成28年度の総合戦略の評価検証はいつどのよう

答

平成28年策定した5次総合計画に、それまでなかった目標値を設定。総合計画と戦略の策定期間が一部重複し、両者ともPDCAサイクルを展開するようになってきている。6月定例会後検証作業に入り、発表は本年度中を目安にしている。

※注 PPP・PFIとは
公共施設等の建設、維持、運営等を民間の資金、経営能力などを活用して行う手法



手を挙げればどこでも乗れるという融通の効く、使い勝手のいいバスだ。上から10人乗り、14人乗り、33人乗り（車いすにも対応）
富山県朝日町

問 公共交通の充実が必要不可欠では

赤字負担が課題で、議論が必要

【公共交通について】

問

高齢者が免許証返納するにあたり足の確保が必要。遠隔地からの通学が不便で危ないため、スクールバスへの要望も強い。公共交通の充実が必要不可欠では。

答

赤字負担が課題。新たな交通政策に取り組む場合は、気運の高まりやルート計画、資金計画、赤字負担の限度額の設定など議論を重ねることが必要。

問

平成29年度の乗合タクシーの事業費は年間1200万円、ナイトシャトルバスは冬期のみ運行にもかかわらず1300万円。住民福祉より、観光客の利便性に税金が使われていると見られても仕方ないが、観光事業も広い意味での福祉で、そこにお金を使っ

答

ているという解釈。

問

交流のある富山県朝日町では一般会計の5%を公共交通に充てている。当村に換算すれば2500〜3000万円位になる。乗車予定を伝えることもできるサービス付きだ。当村でも可能では。

答

実証実験結果で現在の形態にしている。

問 返礼品の個人情報の扱いはどこに

県など、扱いが違うため研究が必要

【予算、ふるさと納税について】

問

返礼品ごとの件数を聞いたら、個人情報だから出せるか分らないとの回答。黒塗りした書類を提出されたこともあった。個人情報の取り扱いはどこに書いてあるのか。

答

自治体や県で、ふるさと納税の個人情報の扱い判断が違う。研究させてもらいたい。